

茶臼岳

ちやうすだけ

1915 M
☆

那須高原を眼下にしたがえた茶臼岳は那須岳とも呼ばれ、県内で唯一、いまでも盛んに噴煙を上げる複式のトロイデ型火山だ。登山道は整備され、初心者や家族連れでも容易に山頂に立つことができ、三六〇度の眺望を楽しむことができる。

黒磯市の北北西二〇°、栃木県と福島県との境に連なる那須連山は日光国立公園に属する火山群で、特に茶臼岳、朝日岳、三本槍岳、南月山、黒尾谷岳は那須五峰、また那須五岳と呼ばれている。その盟主茶臼岳は山頂直下までロープウェイが通じ、初心者でも気軽に山頂に立てることから那須登山の入門コースとして親しまれている。

茶臼岳へは山麓駅からロープウェイを利用するか、峠ノ茶屋から登山道を歩き、峰ノ茶屋を経て山頂を目指す方法である。（『朝日岳』を参照）ここではロープウェイ利用の場合を述べる。

標高一四二〇の那須岳

JR黒磯駅前から東野バス那須岳ロープウェイ山麓駅行

○九 の山頂駅までは、アルペン的な岩肌の朝日岳や雄大な那須高原を見下ろしながら乗組り、那須街道のアカマツ林を抜け、那須高原を西に向かう。那須湯本温泉を過ぎ、ボルケーノハイウェイをのぼ

りきつた山麓駅まで約65分である。車利用の場合には山麓駅脇にある無料駐車場を利用するとよい。

茶臼岳へは山麓駅からロープウェイを利用するか、峠ノ茶屋から登山道を歩き、峰ノ茶屋を経て山頂を目指す方法である。その盟主茶臼岳は山頂直下までロープウェイが通じ、初心者でも気軽に山頂に立てることから那須登山の入門コースとして親しまれている。

▼茶臼岳では大正年間から硫黄製鍊が行われ、一九六〇年ころまで操業されていた。噴火口からトロツコで鉱石を峰ノ茶屋上に集め、これを鉄索で製鍊所に山頂へのルートを示す矢印が黄色のベンキで記してあるのでそれをたどる。

ザクザクして歩きにいい火

山礫の道を進むと、八間石という巨岩帯がある。しだいに急登となり、階段状の登りを越えると火口壁の上の広い道に出る。正面に大きな道標があり、左が山頂、直進が火口、右が峰ノ茶屋の分岐を示して



隠居倉から茶臼岳を望む

▼地形図 那須岳

▼コースタイム 那須岳ロープウェイ山麓駅 4分 山頂駅 35分 峰ノ茶屋 40分 那須岳ロープウェイ山麓駅

▼歩行時間 2時間9分

▼交通 J R 東北本線黒磯駅（新幹線の場合はJ R那須塩原駅）から東野バス那須岳ロープウェイ山麓駅行、終点下車

は、いる。ここから5分ほど登ると山頂である。

茶白岳山頂に那須岳神社の祠がある。

展望は三六〇度で、間近には朝日岳の岩峰、その彼方に磐梯・吾妻連峰、また日光連山、那須高原から関東平野など、まさに那須連峰の盟主にふさわしいパノラマが展開している。

なお、茶白岳の三角点は山頂手前の標高一八九七・六地点にあるが、山頂の標高はこれより高い一九一五である。



峰ノ茶屋(右は剣ヶ峰)

る。那須連峰では三本槍岳の一九一六・九に次ぐものだ。

ここから姥ヶ平を真下に見

ながら火口を時計回りに一周し、道標にしたがつて峰ノ茶

屋方面に下る。急な下りで、植物を寄せつけない、ゴツゴツとした溶岩の重なり合つた

間の道である。ゴーゴーとい

う噴気の音が左上方から聞こえ、しだいにゆるやかな下りとなつて峰ノ茶屋に着く。

峰ノ茶屋の手前を左へ行く

と、噴気孔列や無間地獄などがあり、硫黄で黄色くなつた岩の間から力強く蒸気を吹き上げるのが見られる。ただし、有毒ガスを含んでいるので注意したい。

峰ノ茶屋から那須岳ロープ

ウェイ山麓駅までは、朝日岳

を左に見ながら一本道を下ることになる。

なお、12月1日から3月31日までロープウェイは運休となり、大丸温泉から先は車の通行が禁止され、バスも大丸温泉までとなる。

1

